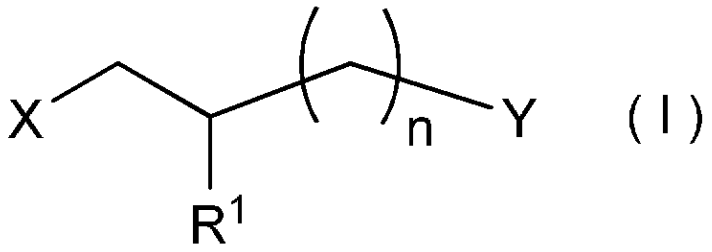
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】令和4年6月21日(2022.6.21)

【公開番号】特開2021-17537(P2021-17537A)
【公開日】令和3年2月15日(2021.2.15)
【年通号数】公開・登録公報2021-007
【出願番号】特願2019-135804(P2019-135804)
【国際特許分類】
Ｃ０８Ｇ 73/12(2006.01)
Ｃ０８Ｇ 59/20(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０８Ｇ 73/12
Ｃ０８Ｇ 59/20

【手続補正書】
【提出日】令和4年6月13日(2022.6.13)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
すなわち、本発明は下記［１］～［５］を提供する。
［１］下記一般式（Ｉ）；
【化１】



（Ⅰ）

［式中、Ｘ及びＹはそれぞれ独立して、ＮＨ２、ＮＲａＨ、ＮＨＣＯＯＨ、及びＮＣ（Ｒａ）２からなる群より選ばれる少なくとも１種の基を表し、Ｒａは炭素数１～３０の炭化水素基、又は酸素原子および／または窒素原子を含む置換基を有する炭素数１～３０の炭化水素基を表し、Ｒ1は水素原子又は炭素数１～６のアルキル基を表す。ｎは６又は７である。］
で表される化合物（Ａ）及び多官能性化合物（Ｂ）を含む、硬化性組成物。
［２］多官能性化合物（Ｂ）が、分子中に化合物（Ａ）と反応する官能基を２つ以上含有し、化合物（Ａ）と反応する官能基が、エポキシ基、活性ビニル基、（メタ）アクリルオキシ基、マレイミド基、酸無水物及びイソシアネート基からなる群より選ばれる少なくとも１種である、［１］に記載の硬化性組成物。
［３］多官能性化合物（Ｂ）が、分子中に化合物（Ａ）と反応する官能基を２つ以上含有し、化合物（Ａ）と反応する官能基が、エポキシ基又はマレイミド基である、［１］又は［２］に記載の硬化性組成物。

［４］前記多官能性化合物（Ｂ）が４，４′－ジフェニルメタンビスマレイミド及び／又は１，６′－ビスマレイミド－（２，２，４－トリメチル）ヘキサンである、［１］～［３］のいずれか１項に記載の硬化性組成物。
［５］［１］～［４］に記載の硬化性樹脂組成物を硬化してなる、硬化物。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６７】
［比較例２］
ビスマレイミド（ＢＭＩ－１０００、大和化成工業製）３４．４ｇ（９６．０ｍｍｏｌ）を１，４－ジオキサン１３８ｇに４０℃下で溶解させ、冷却してビスマレイミド溶液を調整した。また、ＨＭＤＡ（１，６－ヘキサメチレンジアミン、東京化成工業製）５．５８ｇ（４８．０ｍｍｏｌ）を１，４－ジオキサン１１ｇ、エタノール１１ｇに常温で溶解させ、ジアミン溶液を調整した。ビスマレイミド溶液とジアミン溶液を混合した以降は、使用するジメチルホルムアミドの量を１５ｇとした以外は実施例１と同じ条件で製造し、膜厚２７５μｍの硬化フィルムを得た。